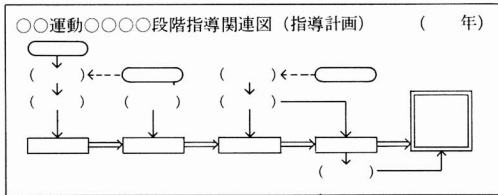


エ 形式



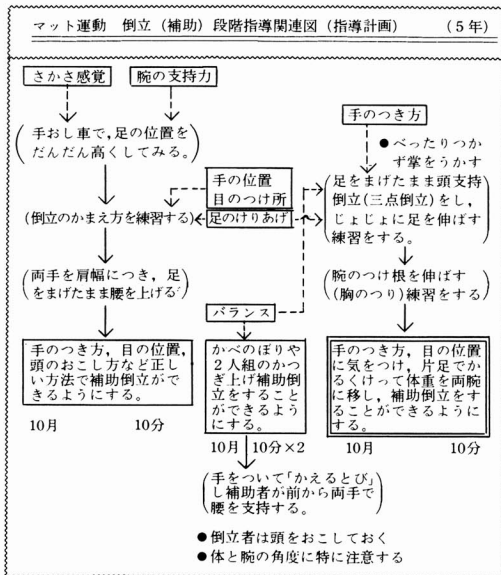
オ 記号

- 到達目標 (最終目標)
- 下位目標 (本時のねらい)
- 前提条件 (すでにできていなければならない要素)
- 学習要素 (学習すべき内容や活動)
- } 学習の流れ
- 前提条件との関連

カ 活用のし方

- (ア) 題材の縦、横の系統をとらえることができる。
- (イ) 学習指導計画が、ひと目でわかる。
- (ウ) 到達目標と一時間ごとの目標との関連がわかる。
- (エ) 下位目標を達成するための学習活動の概略がわかる。
- (オ) 学習が成立するために必要な前提条件がわかる。
- (カ) できない子の原因とされる基本的な内容をとらえることができる。

キ 段階指導関連図の一例



(6) できない子をなくすための資料の活用

ア コンセプトフィルムの利用

学習過程のどの場面で利用するか明確にし、できない子に自由に活用させるため、機器の操作も指導し、効果をあげることができた。

イ O.H.Pの利用

器械運動53種目の練習方法、技能のポイント、補助のし方や器具の利用のし方を T.P に作成して学習過程のあらゆる場面で活用し、効果をあげた。

(7) 検証授業の実践と反省

※ 省略

(8) 検証授業に利用した「個別指導検証カード」の一例

4年	器械運動領域	と②鉄	題材名	前転-後転(後転を中心に)
氏名	O, K	性別	♀女	生年月日 41.6.21 知能SS
家庭での体育的な問題点	体力・技能が劣るため、父親とキャッチボールをしたり、サイクリングをしており、家族ぐるみで体力をつけてやろうと努力している。			
学校での遊び方や行動範囲交友関係	友人が多く、休憩時にはよく外で遊んでいるが、動作がにぶく、ころびやすい。			
既習状況	前転のおさあがり、両手で膝をかかえてしまう。後転は膝を開き、横にころびてしまう。			
第1次学習によるできない原因の診断	体力的	全体的に筋力、巧みに欠けており敏しょう性がない。腕の支持力がない。		
	技能面	前転のおさあがりのとき、膝を両手でかかえ、かかとのひきつけができない。後転の手の位置、回転のタイミングがつかめず、回転力がない。		
	精神面	やる気は、じゅう分である。		
個別指導の計画	<ol style="list-style-type: none"> 1. 後転の手のつき方を指導し、掌を上にして耳の両側にかまえた姿勢でゆりかごをさせる。 2. 踏み切り板を利用し、ひじを開かないようにして後転させる。 3. 起き上がりを中心に後転の練習をさせる。 4. 着地を重点に後転の練習をさせる。 5. 後転して向きを変えて後転でもどる練習。 			
検証	段階	指導の中心	結果	
	第1次	●ゆりかごの運動をとおり、正しい手のつき方を反復練習させる。	●手のつき方はよくなったが膝が胸から離れやすい。	
	第2次	●回転力をつけるため、踏み切り板を使って後転させる。	●よくまわれるが、着地のとき膝を開いてしまう。	
	第3次	●起き上がりするとき、平均して力をつける(両腕に)練習をさせる。	●両腕の支持力がなくなったため、おしあげられない。	
	第4次	●できるだけ頭の近くにつま先をもってくるように着地する練習をさせる。	●1~3次の指導に重点をおいて指導した。着地は不安定。	
第5次	●足を交差させて、後転の連続をさせる。	●ややフォームはくずれなかったが後転ができるようになった。		
学習指導後の反省	どうにかまわれるようになったが、足先をはやく頭の近くにもっていくことがむずかしい。			

(9) 「できない子の指導の工夫と指導上の留意対」の一例